



# 「博労町 舞台の由来と特徴」

松本市重要有形民俗文化財

松本城下町の舞台 シリーズ②



現在の舞台

博労町の舞台は、平成十三年に『松本市重要有形民俗文化財』に指定されました。現存する舞台の中で最古・最大であります。

建造は江戸時代後期と伝えられ、明治三年に大修復され、棟梁は乾原治平眞峯、彫刻は立川和四郎と伝承されています。

構造は四輪で、二層の構成であり、二階の柱はせり上がり式となっていて、木の枝等が、屋根との接触を避けるための造りと思われま。一階に巻き上げ装置があり、ロープを引き、上げ下げする様に



昭和初期の様子

なっています。近年は下げたまま使っていません。特徴のひとつとして両横にある底の下に、更に葎型(格子状になっている)底があり、それを跳ね上げる珍しい構造となっています。

車輪は、木を組み合わせ、外周に鉄の輪を嵌める、という寄せ木造りで他の舞台とは異なっています。

彫刻は、周囲に神仙・仙人、水鳥・おしどり、前部底の持送り部には麒麟・鳳凰、後部底は亀・龍の透かし彫りとなっており、他に牡丹等々多彩で豪華秀逸であります。

博労町の舞台は大きく重いため、梶棒を担う若い人の確保が悩みの種です。皆で知恵を絞って、協力し、受継いだ舞台を、次代に引継いで行きたいと思えます。

修復してから、出勤時、屋根の一部が看板に当たり破損した事があり、以降は新設の看板・案内板、電線・木の枝等、特に注意しています。

平成の大修復は平成十一年十月に行われ、当時は市の『重要有形民俗文化財』に指定されていなかったため、補助金も無く、修復費用は全て町会の皆様の寄付で賄われ、創建当時の輝きを取り戻し、現在の姿となっています。

飾り人形は、鍾馗様で、剣を持ち邪気・疫病を追い払う神とされ、周囲に、睨みを利かせています。また町の隆盛を願う人形とも言われています。

塗り上げとなっています。また上高欄台(二階床の四方)には、黒漆表面に波千鳥の金色の飾り金具を配し、躍動感を際立たせています。

平成26年11月1日現在	
世帯数:	781戸(-10)
人口:	1439人(-26)
男:	681人(-11)
女:	758人(-15)

塗り、下層は春慶性及び耐水性のため、上層は黒漆塗り、下層は春慶

## 第一地区 行事あれこれ

### 敬老祝賀会

9月11日

ひろは幹事会長 民生中協会長



特殊詐欺被害防止の寸劇では、ひろは・民生の会長さんも飛び入りで熟演!

### 秋のマレットゴルフ大会

9月6日



秋晴れの中、ナイスショット連続でした。このショットもモテロン...

### 食生活改善栄養指導講座

9月30日



ハテラン主婦のみなさん、手際がいいです。さすが~

### 秋のウォーキング大会(新村地区)

10月24日



松電に乗って新村へ。松本大学にもおじゃまして、学生気分ランタイム♪

### 第一地区防災フェスタ

10月26日



はしご車乗車体験。ドキドキ♥

### 秋の視察研修

10月29日



ものすごくキレイな秋空でした。モノクロ掲載で残念!

「行事など情報をお寄せください。写真を掲載させていただきます。」

第一地区の

老舗をたずねて

第四十回

株式会社ヤマザキ屋

(本町一丁目)

ヤマザキ屋は大正十四年、注文靴の製造販売業の店を東町三丁目に創業しました。

その頃の靴作りは当時としては最先端産業のひとつであり、たくさんの熟練した職人が必要としました。ここで当時の靴作りの過程をご紹介します。

一、靴作りは、まず店にお見えになったお客様のを計測することから始まります。足の長さ、一の甲といつて、足のボール部の回り寸法(足幅・ウイズ)と、また二の甲といつて、甲の回り寸法(甲の高さ)を測ります。

足の計測は実際に木型(靴型)を削つたり、アッパーと靴底を縫い合わせる底付け職人が自分で計測することで、より正確にフィットする靴を作ることが出来ます。

足の計測の後には、デザインや革質についてお客様のご要望をお聞きしてご注文通りの靴を作る工程に入ります。

二、木型(靴型)作りは、ナラやカシなどのかたい木材を

採寸したお客様のサイズに合わせて、靴の形に削つていきます。

靴を履き良くするためには、「捨て寸」といって、つま先に余裕あるいは空間が必要です。このつま先に丸みを持たせたり、とがらせたりすることで个性的なデザインが出来るわけです。

三、デザインに合わせて革の裁断をします。

四、製甲といつて、アッパー(靴の上の部分)を作る職人が裁断した革をミシンで縫い合わせます。

五、底付け職人が、靴底とアッパーを、二本の針と麻糸を使って手縫いで縫い合わせます。(一度仮縫いをしてお客様の足に合わせます。)

六、底材を染めたり、クリムを塗つたりして、靴を磨きあげます。

以上のようにして何人もの職人が手作りで靴を製造して



昭和の初め頃、嫁いだばかりの私の祖母とバスの広告

いました。大正や昭和の初めですから靴は高額で、現在に換算して一足二十万円から三十万円ぐらいしたようです。

さて、ヤマザキ屋は戦前に東町から大名町に移転しました。戦争中は将校さんの長靴を注文でお作りしました。

戦後は昭和二十五年に株式会社となり、店舗は本町の現在場所となりました。

戦後しばらくは注文靴も扱っていましたが、大工場による機械化が進み、大量生産によって靴が廉価になるとともに、昭和四十年ごろまでには、ヤマザキ屋も既製品だけの店となりました。高価な手作りの注文靴は需要がなくなつていったからです。

その頃に長野市東後町に支店を出店しました。

現在は、ながの東急百貨店の一階と四階の靴売り場、北長野ショッピングセンター二階などに支店があり、FCとして、リーガルシューズ長野店とリーガルシューズ松本店がございます。

本町の本店では、靴靴専門店として、紳士婦人の既製革靴をお取り扱いするとともに、創業時の注文靴に近い業態として、セミ・オーダーも承っております。

山崎眞生夫

「手前ぎる 俊」

住所 松本市中央1-4-6  
電話 0263-36-3936  
営業時間 11:30~14:30  
17:00~翌1:00  
定休日 不定休/提供開始年 2012年



お店から ..... 豊富な地酒と郷土料理が楽しめます。最後は、松本平産のそば粉100%の贅沢な「メそば」をどうぞ!

おすすめ

えびと野菜の天ざるそば 1,770円

第一地区 5回 そばはかまっポ

電車通り

御嶽山の噴火災害も想定外であったが、いろいろな意味で驚くべきことが次々と起こる。松本山雅FCのJ1昇格も、そのひとつ。(株)松本山雅の前身であるNPO法人アルウィンスポーツプロジェクトがJリーグを目指して活動を開始したのは平成16年のこと。多くの友人が設立を主導したが、当時地域リーグの2部でプレーするチームがJリーグを目指すこと自体正気の沙汰とは思えなかった。今となつては自身の不明を恥じるのみ。「和紙」がユネスコの無形文化遺産に登録されるというニュースに、日本人としての自尊心がくすぐられたが、「和食」のように「日本の和紙の技術」が登録されるのかと思いきや、既に登録済みの「石州半紙」に他の二つの産地が追加されるだけなのだという。越前和紙を始めとした国内の多くの手すき和紙の産地が独自に登録を目指したものの、登録数が増えず個別の登録が難しくなつたのだという。国は「山・鉾・屋台行事」も申請中のようだが、わが街の「深志舞台」もぜひ加えていただきたいものである。

Map showing location of '俊' near M-wing, 中町通り, パルコ, 郵便局, 松本駅, アリオ松本, ホテルブエナビスタ. Contact info: 電話・FAX: 32-1550, E-mail: dai1-k@city.matsumoto.nagano.jp